（様式 4)[担当部署→総務課]
令和8年9月 7 日

「名寄市総合計画（第3次）基本構想・基本計画（素案）」に対するパブリック・コメント手続の実施結果について

「名寄市総合計画（第3次）基本構想・基本計画（素案）」に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。
寄せられたご意見について検討した結果、素案の修正を一部実施し策定することとしました。

1. パブリック・コメント手続の実施結果

案件名	名寄市総合計画（第3次）基本構想・基本計画（素案）
意見等の募集期間	令和8年8月1日（土）～8月 31 日（月）
案の公表方法	1　実施機関が指定する場所での閲覧又は配布 2　市ホームページへの掲載 3　その他（報道機関への情報提供、FMなよろでの周知）
意見等の提出方法	「意見提出用紙」により実施機関窓口持参、郵送、ファックス、電子メール
結果の公表方法	指定閲覧場所、市ホームページ、市広報
意見等の提出者数・提出件数	提出者　4人　　提出件数 10 件 【内訳】 書面提出：0 件、郵便：0件、FAX：1 件、電子メール：3件 その他：0 件
意見等の処理	以下のとおり

2. 意見の概要と市の考え方について

No.	市民等の意見の概要	件数	意見に対する名寄市の考え方
1	「Ⅴ-5 生涯学習の推進」「Ⅴ-6 社会教育の充実」「Ⅴ-8 日常のスポーツ文化と健康づくりの推進」について ピヤシリスキー場のナイター営業を毎日行ってほしいです。学生たちにとって、平日の日中に練習や活動を行うことは難しく、放課後のナイター営業の時間にしか通えません。 スキーのアルペンチーム、テクニカルチーム、スノーボードのパークなど様々な団体が素晴らしい環境で練習を行うことができるスキー場であるにも関わらず、日向スキー場など近隣のスキー場へ行かなければならない現状を改善していただきたいです。 経営面、財政面など課題があることは承知の上ですが、スポーツ文化の推進を目標に掲げるのであれば、市民が活用しやすいよう、第一、第二リフトの営業をナイターまで毎日営業をお願いしたいです。	1	名寄ピヤシリスキー場においては、持続可能なスキー場とするため、利用者の減少に伴いナイター営業については令和2年から木曜日・金曜日・土曜日の営業、令和7年から木曜日・金曜日の営業とさせていただいております。 現状の営業においては、少年団等の活動に支障がないよう調整させていただき営業を行っております。 引き続き、スキー・スノーボードを市民の皆様が気軽に楽しめる機会づくりと、競技人口の裾野拡大に取り組んでまいります。

2	人口減少は2万人を大きく割り、高齢化は約4割となる事が予想される。 名寄は災害もなく住みやすい「ここでいい・ここがいい」農業を中心に福祉・医療に重点を置いた政策を進めてほしい。	1	本計画では、人口減少や少子高齢化の進行を本市の重要な課題として捉え、将来像として「『ここでいい』から『ここがいい』へ　人のつながりと四季の恵みで幸せな未来を創るまちなよろ」を掲げています。 また、保健・医療・福祉については、市立総合病院を中心とした地域医療体制の維持・確保や地域で支え合う包括的な支援体制の強化を進めるとともに、基幹産業である農業についても、生産基盤の整備、担い手の育成・確保などを通じて持続可能な農業の実現を目指すこととしています。 今後も、人口減少下においても市民が安心して暮らし続け、「ここがいい」と実感できるまちづくりを進めてまいります。
3	政策を進めるに当っては、市民の声を多く取り入れると共にまちづくり協力隊など外部からの意見も必要だと思います。	1	本計画では、市民がまちづくりの主役として参画できる環境づくりを進めるとともに、市民との情報共有や対話を通じて、多様な意見をまちづくりに活かすこととしています。 今後も、市民の声を幅広く取り入れるとともに、地域おこし協力隊をはじめとする外部人材の視点も活かしながら、各施策を推進してまいります。
4	財政面から新たな施設の建設は抑え、現在ある施設の有効活用を再検討すべきだ。 各公共施設の補強、稼働状況の詳細な把握と利用のしやすさの検討が必要。 福祉センター、よろーな、市民文化センター、エンレイホールなど	1	本計画では、人口減少に伴う市税収入の縮小や、社会保障関連経費、公共施設等の老朽化対策による財政支出の増加を見据え、限りある財源の中で事業の選択と集中を進めることとしています。 公共施設についても、建築後 30 年以上を経過した施設が全体の 61%を占める状況を踏まえ、施設の利用状況や市民ニーズを的確に捉えながら、効果的・効率的な整備を進めることとしています。 ご意見のとおり、既存施設の有効活用は重要な視点であることから、各施設の利用状況や役割、老朽化の状況、市民ニーズ、将来的な財政負担等を総合的に勘案し、公共施設の適正配置や有効活用について検討してまいります。

5	医療は将来の人口減少を考えると現行の病院数でいいのでないか。 医療体制など中身の充実に力を入れてほしい。	1	本計画では、人口減少が進む中にあって、限られた医療資源を地域全体で効率的に活用し、持続可能な地域医療提供体制を構築することを基本的な方向性としています。 市立総合病院を中心に地域の医療機関が適切に役割分担するとともに、医療従事者の確保･定着や医療 DX の活用、医療機関相互の連携などを進め、必要なときに安心して医療を受けられる体制の維持･確保に努めてまいります。
6	町内会の支援については、方向性が出てきているので、具体的な取り組みの実行が待たれる。	1	町内会加入率の低下や役員の担い手不足等を課題として捉え、町内会連合会の事業内容の見直しや負担軽減について検討することとしています。 また、町内会等による活動への支援に加え、担い手の育成や活動拠点の整備、運営面でのサポートなどを通じて、時代に即した持続可能な地域コミュニティの構築を図るとともに、ご意見を踏まえ、課題解決に向けて、町内会連合会と町内会が一体となって、役員の負担軽減への対応を模索しながら、持続的な活動となるよう検討を進めてまいります。
7	コンパクトな街づくり、市街地の活性化では駅から市立病院までの「線」でなく、南広場ぐらいまでの「面」で考えるべきと思います。 広範囲に分散した公共施設を「線」にまとめるにはムリがある「面」で検討すべきだ。 市民の居住地、日常動線、市民･若者のニーズ把握が必要。	1	本計画におけるまちなか再生･活性化は、特定の「線」のみに都市機能を集約することを意図したものではなく、中心市街地を面的に捉えながら、既存の都市機能や生活サービスの維持･充実と有効活用を図る考え方です。 人口減少が進む中にあっても、商業･住居･公共サービスが身近にそろう市街地の形成を目指すとともに、公共交通を含め、買い物、通学、通院、仕事などの日常生活における移動の利便性を確保することとしています。 今後、具体的な取組を検討する際には、市民の居住状況や日常の動線、市民や若者をはじめとする多様な世代のニーズなどを踏まえ、中心市街地全体のあり方を検討してまいります。

8	農業対策の維持とふるさと納税にもっと力を入れていただきたい。	1	農業は本市の基幹産業であり、本計画においても、生産基盤の整備・保全、スマート農業等による省力化・生産性向上、担い手の育成・確保、地場産品のPR・付加価値向上などを進め、持続可能な農業の実現を目指すこととしています。 また、ふるさと納税については、自主財源の確保・拡大に向け積極的に事業を展開することとしており、農産物の返礼品への活用についても計画に位置付けています。 今後も、本市の魅力ある農畜産物や地場産品のPRとふるさと納税を効果的に連携させ、地域産業の振興と自主財源の確保につなげてまいります。
9	将来像の「ここでいい」から「ここがいい」へ、はまさにその通りでここなら安心に暮らせるというのが大事だと思います。 幸い、名寄市は地震、台風、水害など少なく火山からは離れており津波はもちろんなし。 長期的に海水上昇が起きても水没は人類が生きている間は起きないでしょう。 唯一、心配なのが老朽化した水道管による断水です。 日本の水道管はもう限界なのは知られていることです（それだけ古くから水道が普及していたから仕方ない）が、2025年3月の下川の断水を見てもいつ断水が起きてもおかしくないと思います。 断水が起きないように早め早めの水道管更新をお願いしたいところです。（埋設当時の資料が古くてないという話もありますが・・・） 災害地域を見ても断水が一番大変（電気、ガスは代用できる）であり、水は重いし、水分を取らないと脱水で死んでしまう・・・名寄の真冬に断水が起きると給水をする方ももらう方も地獄を見るのは明らかなので重要度は一番高いと思います。 試しに訓練で真冬に給水作業をやるのも一案かと。	1	水道は市民生活を支える重要なライフラインであり、本計画においても、水道施設の老朽化や更新需要の増大を課題として捉えています。 安全で良質な水道水を安定的に供給するため、施設の適切な維持管理と老朽管を含む計画的な改修・更新、耐震化を進めてまいります。 また、冬期間の断水を想定した給水訓練については、災害時等における対応力の向上に向けたご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。

10	第3次名寄市総合計画（素案）では、名寄地区・風連地区の既成市街地を「中心拠点・地域拠点」と位置付け、生活サービス機能や公共施設の最適化を通じて持続可能な都市構造への転換を図るとされており、名寄地区を「中心拠点」、風連地区を「地域拠点」と位置付けるものと受け止めています。また風連駅周辺は「都市拠点ゾーン」として、公共施設・医療・商業・福祉機能の集約や、歩いて暮らせる居住環境の整備、中心市街地の活性化を進める方向性が示されています。 第2次総合計画では、風連地区は個別の施設や事業を配置する対象として扱われる面が強かったのに対し、今回、風連地区を「地域拠点」として位置付けたことは、今後の風連地区のあり方を考えるうえで重要であると考えます。 一方で、第3次名寄市総合計画（素案）を読む限り、「中心拠点」と「地域拠点」がそれぞれどのような役割・機能を担い、両地区がどのように連携・役割分担していくのかは十分に明確になっていないように感じます。 この位置付けを今後の施策につなげていくためには、都市構造上の位置付けを示すだけでなく、風連地区が地域拠点としてどのような役割を担い、どのような機能を維持・確保していくのか、その基本的な方向性を総合計画に明示していただきたいです。 特に風連地区では、人口減少や高齢化に加え、事業者の減少や後継者不足も進んでいます。 地域の商店や生活サービスは、高齢者等の日常生活を支えるだけでなく、人が集まり交流する場としての役割も担っています。 また、農業を基盤とした地域産業や、道の駅「もち米の里☆なよろ」などの地域資源もあります。 これらを商工業や地域住民とつなぎ、人の交流や地域内消費につなげていくことも、地域拠点としての風連地区を維持していくうえで重要と考えます。	1	※以下のとおり、主な意見項目ごとに回答します。

10-2	名寄地区が担う中核的な機能と、風連地区が地域拠点として担う役割を明確にしていただきたいです。 特に、風連地区において人口減少・高齢化が進むなかでも地域住民が住み続けられるよう、地域拠点を形成するうえでは、商業・生活サービス、医療・福祉、公共施設、居住、交流、公共交通等を個別に捉えるのではなく、相互に関連するものとして、地域住民の暮らしを支える一体的な機能として捉える必要があると考えます。 そのため、風連地区が地域拠点として、将来にわたりどのような機能を維持・確保していくのか、その基本的な方向性を計画に示していただきたいです。 また、名寄地区と風連地区をそれぞれの役割に応じた拠点として位置付けるだけでなく、両地区を公共交通や交流・経済活動によってどのようにつなぎ、相互に機能を補完していくのかについても、基本的な考え方を示していただきたいです。	1	人口減少や少子高齢化が進む中においても、市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、名寄地区と風連地区が、それぞれの地域特性や役割に応じた拠点機能を担い、相互に補完しながら市全体の暮らしを支えていくことが重要であると考えています。 このため、名寄地区は、市全体や道北圏域を支える中心拠点として、行政、医療・福祉、商業、教育などの中核的な都市機能の維持・充実を図ります。 一方、風連地区は、地域住民の日常生活を支える地域拠点として、身近な買い物や生活サービス、医療・福祉、公共施設、地域活動・交流の場、居住環境、移動手段など、地域で暮らし続けるために必要な機能の維持・確保を図ります。 また、すべての機能をそれぞれの地区で完結させるのではなく、公共交通等による移動手段を確保し、両拠点の機能を相互に補完するとともに、地域イベントや交流活動、商業・観光、農産物をはじめとする地域資源を活かした取組などを通じて、人やモノ、消費の流れを生み出し、市全体の暮らしやすさと活性化につなげてまいります。 ご意見を踏まえ、名寄地区を「中心拠点」、風連地区を「地域拠点」とするそれぞれの役割や、維持・確保する機能、公共交通や交流・経済活動を通じた両拠点の連携・相互補完の考え方がより分かりやすくなるよう、計画の記載を修正します。

10-3	風連地区には道の駅「もち米の里☆なよろ」があり、市内外から多くの来訪者があります。 第3次名寄市総合計画（素案）では本市の観光が「通過型」であることが課題とされていますが、道の駅を単独の施設としてではなく、市南側から訪れる人の玄関口の一つとして、風連地区の中心市街地や商店・飲食店への回遊・消費、さらに名寄地区を含む市内各地域への周遊・滞在・消費につなげる視点も重要と考えます。 道の駅と風連地区の地域拠点、市内各地域との連携をどう進めていくのか、方向性を示していただきたいです。	1	本計画では、本市の観光が通過型となっていることを課題として捉え、地域資源を活かした体験型・滞在型観光を推進するとともに、飲食や地域産品等との連携により、地域内での消費や交流の拡大につなげることとしています。 道の駅「もち米の里☆なよろ」は、市内外から多くの方が訪れる地域資源であり、市南側から本市を訪れる方の玄関口の一つとして、風連地区の商店や飲食店をはじめ、市内各地域への回遊や滞在、消費につなげていく視点は重要であると考えています。 今後、観光振興や商工業振興等の具体的な取組を進める中で、道の駅を含めた地域資源相互の連携や、市内への回遊を促す仕組みについて検討してまいります。
10-4	地域拠点として生活サービス等の機能を維持するには、そこへアクセスする公共交通も重要な基盤となります。第3次名寄市総合計画（素案）では既存バス路線の維持や、高齢者・学生等の移動手段の確保が課題として挙げられています。風連地区ではデマンドバスが運行されていますが、人口減少・高齢化が進む中で、住民の移動ニーズや利用状況、運行コスト等を踏まえ、新たな交通手段の活用も含め、生活サービスへのアクセスと名寄地区の中心拠点との連携を支える公共交通体系について、基本的な方向性を示していただきたいです。	1	公共交通は、人口減少や高齢化が進む中において、買い物や通院、通学などの日常生活を支える重要な生活基盤であると認識しています。 本計画では、既存バス路線やデマンドバス等により地域の移動手段を確保してきた一方、利用者の減少や運転手不足、運行経費の増加などを課題として捉え、効果的で効率的な公共交通体系の最適化に向けた検討を進めることとしています。 今後も、名寄市地域公共交通活性化協議会において、利用状況や市民の移動ニーズ、運行にかかる費用などを踏まえながら、風連地区の生活の足の確保と、市内各地域を結ぶ持続可能な公共交通の実現に向けて検討を進めてまいります。

10-5	第3次名寄市総合計画（素案）では風連駅周辺が「都市拠点ゾーン」として位置付けられ、中心市街地の活性化を進める方向性が示されていますが、重点プロジェクト1「まちなか再生・活性化プロジェクト」における「中心市街地」並びに「まちなか」がどの範囲を指すのか、風連地区がどう位置付けられるのかが分かりにくくなっています。 市全体を対象とする施策として風連地区も含まれるのであれば、そのことを明確にするとともに、含まれない場合も地域拠点としての風連地区の役割をどのような施策によって実現していくのかを示していただきたいです。	1	重点プロジェクト1「まちなか再生・活性化プロジェクト」は、名寄地区のみを対象とするものではなく、名寄駅周辺及び風連駅周辺について、それぞれの地域特性や役割に応じたまちなかの再生・活性化を進める考えです。 名寄駅周辺は、市全体を支える中心拠点として、商業、居住、交流、公共サービス等の都市機能を活かした賑わいと交流の創出を図ります。風連駅周辺は、地域住民の暮らしを支える地域拠点として、生活サービスや公共施設、居住、交流等の機能を活かした市街地の活性化を図ります。 ご意見を踏まえ、重点プロジェクト1に名寄駅周辺と風連駅周辺の地域特性や役割に関する記載を追加し、風連地区を含めた取組であることが分かりやすくなるよう修正します。

［問合先］
担当課　総合政策部総合政策課
電　話　3－2111（内線3313）